

07 奥細川

保全 水質は比較的良好。他の地点と比較して、ハゼ科の通し回遊性 *1 の魚類の種数が多い。底生動物の種類が比較的豊富。

課題 下流部・中流部に、非常に比高が高く、魚道の無い横断工作物がある。浮石が少なく、河床が固定化傾向にある。

03 洲本川下流部 (上加茂橋下流部)

課題 右岸側から著しく白濁した水が流れ込んでいた。

02 洲本川下流部 (桑間～物部付近)

保全 水際形状が比較的入り組んでおり、後背水域が分布する。水際の植物帯が仔稚魚やエビ類の生息場所となっている。



01 洲本川河口部

保全 小規模ながら干潟が存在する。汽水性・通し回遊性 *1 の種類が分布する。

課題 河岸は低水護岸率が高い。干潟は、植生面では多様性が低い。COD値が高く、水質が汚濁傾向にある。強い濁りが高い頻度でみられた。



06 洲本川中流部 (横断工作物)

課題 比高が1mを超えるものとしては、河口からひとつ目の横断工作物。アユなどの遡上を阻害している可能性がある。



08 初尾川・鮎屋川中下流部

保全 河床勾配は急ではあるが、面積が占める割合が高い区間である。そのため、ヨシ群落の分布が多く、特異な区間となっている。

課題 魚道の無い横断工作物の密度が高い。初尾川下流部では、強い濁りが高い頻度でみられ、非常に高水温(下流地点よりも高い)。浮石が少なく、河床はやや固定化傾向にあるもよう。

09 初尾川・鮎屋川上流部

保全 水辺に自然林・二次林の接する場所がある。水質は比較的良好。

課題 比高が高く、魚道の無い横断工作物の分布密度が高い。浮石が少なく、河床がやや固定化傾向にある。初尾川上流部は、上流部としては、非常に高水温。猪鼻川・竹原川上流部と比べて、底生動物の種類がやや貧弱。



12 樋野川

課題 全域で、低水護岸率が高い。瀬・淵の変化に乏しく河川形態は単調。魚道の無い横断工作物の分布密度が顕著に高い。水質が著しく汚濁している。外来種スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)が非常に多い。

04 異川

課題 水質が汚濁している。強い濁りが高い頻度でみられた。

05 洲本川中流部 (千草川合流～奥畑)

保全 希少な魚類の生息地。

課題 低水護岸率が高く、河川形態が単調。水質が汚濁している。強い濁りが高い頻度でみられた。

10 千草川下流部 (樋野川合流～猪鼻川・竹原川合流)

課題 下流側は、低水護岸率が高く、河川形態も単調。魚道の無い落差工等の横断工作物の分布密度が高い。猪鼻川・竹原川合流より下流側では、極端に流量が少ない区間が続く。水質が汚濁しており、強い濁りが高い頻度でみられた。外来植物群落の面積が占める割合が水系内でもっとも高い。

11 千草川下流部 (横断工作物)

課題 比高が1mを超えるものとしては、河口からひとつ目の横断工作物。堰下流側で、通し回遊性 *1 のエビ類が多く、これらの遡上に影響している可能性がある。

14 竹原川

保全 河道は蛇行を描いて流れ、河川形態は比較的良好。水辺に自然林・二次林の接する場所が比較的多い。洲本川水系のなかでは、きれいな水質が維持されている。底生動物の種類が比較的豊富。

課題 比高が高く、魚道の無い横断工作物が多い。

13 猪鼻川

保全 横断工作物が高密度で分布するが、比高の高いもの(1m以上)は少ない。河道は蛇行を描いて流れ、河川形態は比較的良好。水辺に自然林・二次林の接する場所が比較的多い。洲本川水系のなかでは、きれいな水質が維持されている。底生動物の種類が比較的豊富。



課題 強い濁りがみられた。中流部では、大型糸状緑藻が繁茂している箇所がある。

*1 「通し回遊性」…海と川を往復する生活史を送る性質

全体区分

各調査結果を総合的に判断・整理したゾーニング

魚類・底生動物の現地調査地点

● 調査地点

回遊種の確認上限

▲▲ 近年の確認上限

▲▲ 過去の確認上限

植生から見た流程区分

ツルヨシ・ネコヤナギ型

移行帯

オギ・ツルヨシ型

感潮域

横断工作物の確認位置(水面比高0.2m以上)

○ 魚道あり

○ 魚道なし

間取調査による名前のある淵の現状

● 無くなった

● 浅くなった / 狭くなった

● 変わらない

● 不明

予察調査による河川環境の記録

● 課題が見つかった箇所